

自社製品によるCO₂削減貢献

太陽熱利用機器や木質ペレットを燃料とした冷暖房機器はCO₂排出量削減に寄与する製品です。木質ペレット焚吸収冷温水機『バイオアロエース』は、カーボン・ニュートラル[※]の考えに基づいた冷暖房機で、木質ペレットの原料である木材の成長過程におけるCO₂吸収量を考慮することで、化石燃料の利用に比べて1台あたり年間約30トンのCO₂削減効果があります。

また、デジタルタコグラフなどの計装機器を車両に搭載することで、効率的な車両の運行管理や安全性の向上だけでなく、車両の燃費改善につながり、CO₂削減にも貢献しています。

これらの製品による2018年度のCO₂削減貢献量は10.2万トンとなり、2011年度からのCO₂削減貢献量は、累計で59.1万トンとなりました。

※カーボン・ニュートラル：燃焼や分解にともなって排出されるCO₂量と、自然界で森林や植物などに吸収されるCO₂量が同じ状態

グリーン物流の推進

国内矢崎グループでは、省エネ法に基づき、輸送エネルギー消費量原単位の削減活動に継続して取り組んでいます。2018年度の国内物流にともなうCO₂排出量は、前年度比2.5%減の1.8万トンとなりました。また、輸送量(トンキロ)あたりのCO₂排出量は前年度比4.0%減の118g-CO₂/トンキロとなりました。

2018年度は国内各所にて自然災害による交通網遮断、とくに西日本方面の鉄道被害に大きく影響を受けましたが、混載の強化、運行便数の見直しなどにより、CO₂排出量の増加を最低限に抑制することができました。

2019年度も継続してCO₂排出量の削減活動に取り組めます。

資源循環

基本的な考え方

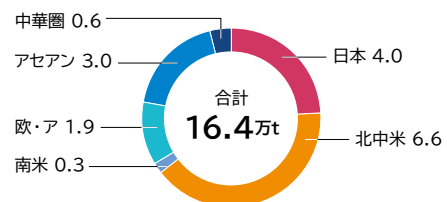
世界人口の増加や経済発展により、資源の枯渇などの環境リスクが高まっています。加えて、海洋プラスチックによる環境汚染が世界的な課題となっています。矢崎グループでは、5R[※]の考えを基本に、製造工程におけるロス削減やリサイクルの推進など排出物量の削減対策を通じ、循環型社会の構築に取り組んでいます。また、水リスクへの対応として、水の循環利用や節水対策など水使用の最小化に努めるとともに、工場排水が周辺環境へ影響を及ぼさないよう管理の強化を行い、水資源の保全に努めています。

※5R：Reduce/Reuse/Recycle/Refuse/Repair

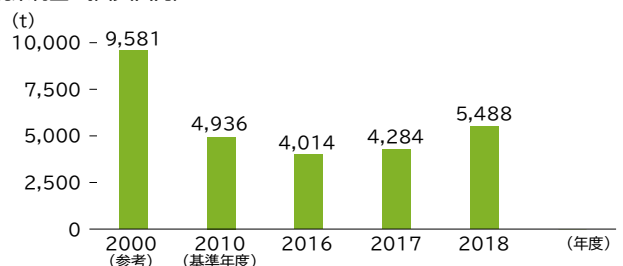
排出物量の削減活動

矢崎グループでは、5Rの考えのもと製造工程におけるロス削減やリサイクルの推進、分別の細分化など排出物量の削減対策に取り組んでいます。2018年度の排出物量はグローバルで16.4万トンとなりました。また、国内矢崎グループの2018年度の廃棄物量は中国をはじめとする海外各国の廃プラスチック輸入制限の影響により、2010年度比11.2%増の5,488トンとなりました。今後も削減活動を継続していくとともに、世界的な課題のひとつであるプラスチックゴミ問題に対しても取り組んでいきます。

地域別の排出物量(万t)



廃棄物量の推移(国内)



About us
 社会の豊かさ向上のためのソリューション提供
 健全かつ強固なサプライチェーンの構築
 真に強い組織の確立
 地域社会発展への貢献
 グローバル環境マネジメントシステムの強化
 グローバルなガバナンス、内部統制の強化

製品の再利用、リサイクル材の活用

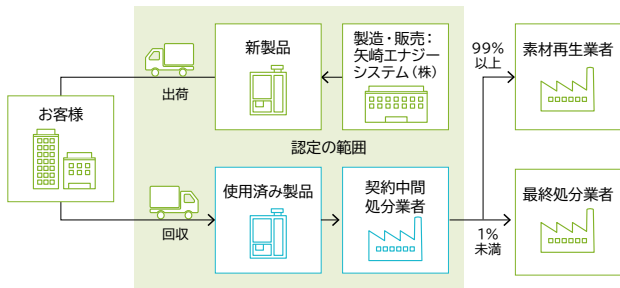
矢崎グループでは、国内外でポリテナー容器が約5,000万箱、プラスチック製のパレットは約150万枚が使用されていますが、繰り返し使用し破損した場合は廃棄処分されています。矢崎グループの運送会社である翔運輸（株）では、破損などにより不要になったプラスチック製のポリテナー容器やパレットを回収し、粉碎して再生プラスチックパレットの材料として活用する取り組みを行っています。これによりプラスチックが循環利用され、2018年度は約200トンの廃棄物量が削減されました。

使用済み製品の環境負荷の低減

矢崎グループは、使用済み電線、木製ドラム、ガスメーター、吸収冷温水機の吸収溶液などを回収し、リユースやリサイクルを行っています。浜松工場では、「広域認定制度[※]」により使用済みの吸収冷温水機『アロエース』を回収し、各部材をリユースやリサイクルしています。製品本体を形成している鋼板や熱交換器を形成している銅管、吸収溶液などの分別、再生利用などを行うことで、昨年に引き続き2018年度も再資源化率（重量比）は99%以上となっています。

※環境大臣の認定を受けたメーカーなどが、廃棄物となった自社製品を広域的に回収し適正処理やリサイクルをすることを目的とした制度

広域認定制度に基づく空調機器の回収



水資源の保全

水リスクに関する認識

矢崎グループでは、事業所の水リスクを把握するため、「WRI AQUEDUCT[※]」を用いて評価を行いました。評価の結果、リスクが高いと評価された主要拠点はありませんが、世界的な課題のひとつである水リスクに対し、企業として取り組むべき課題と認識し、自主目標を定め取り組んでいます。

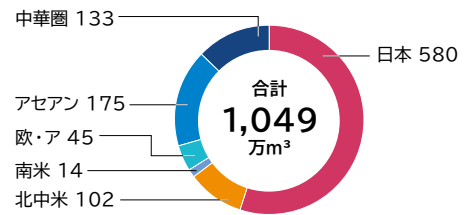
※世界資源研究所（WRI）が開発した水リスク評価ツール

水資源保全の取り組み

矢崎グループを代表する製品である電線の製造やワイヤーハーネスを構成する樹脂部品の製造では、冷却工程などで多くの水を使用します。このため矢崎グループでは、グローバルで水使用量を把握するとともに、排水をできるだけ再利用することで、水使用量の削減に努めています。

2018年度の水使用量はグローバルで1,049万m³、前年度比3.9%減となりました。設備冷却水の再利用や設備の定期的なメンテナンスによる漏水防止、雨水や食堂からの排水を植物の水やりへ利用するなど、各国・各地域の水環境事情に応じた節水活動に取り組んでいます。また、従業員へ節水に関する教育を行うなど啓発活動にも取り組んでいます。また、水使用量の削減だけでなく、汚水の流出を含めた「水リスク」への対応も含め水資源の保全に取り組んでいます。

地域別の水使用量(万m³)



TOPICS

子どもたちへの環境教育

YBM（ブラジル）では、事業所近隣の小学校を訪問し、水資源の保全や廃棄物削減などの大切さを子どもたちへ伝える環境教育を行っています。2019年4月には、楽しみながら水の大切さを学ぶことができるよう、演劇を交えながら教育を行いました。今後も子どもたちの環境意識を高めるために、このような活動を継続していきます。



水の大切さを学ぶ子どもたち